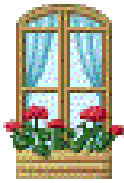


島根の地域医療

第2号 島根県健康福祉部医療対策課 '02 Jul. 19
▲いつでもどこでも適切な医療が受けられる島根を目指して▼



◇第1回へき地等医療支援会議及び医師確保部会を開催

本県では、今年度から「緊急へき地等医療支援対策事業」を行うことを本紙第1号でお知らせしましたが、その具体的な各種事業を総合的・体系的に推進するため、6月14日に「へき地等医療支援会議」を開催しました（内容については右欄の転載記事を参照ください）。

特に、へき地での医師確保については、医師の高齢化等によりますます需要が大きくなると見込まれることから、この会議に「医師確保部会」を設け専門的に検討することとなり、7月19日に第1回の部会を開催しましたが、各地域とも医師の確保が困難であり、地元で人材を育成すること、医療人材センターを有効に活用すること、遠隔医療等ITの活用を検討すること等意見交換を行いました。

住民の方々が安心して生活でき、勤務する医療従事者も満足できる医療提供体制を、この会議を中心に整備していきたいと考えていますので、今後の島根県の施策にご注目ください。【医療対策課 小松原】

島根県庁医療対策課の連絡先


E-mail ◇ iryou@pref.shimane.jp

TEL ◇ 0852-22-5251

住所◇ 690-8501 松江市殿町1
ホームページ[島根の医療]

http://www.wah.pref.shimane.jp/med/

地域医療最前線その3

隠岐島前の3島(人口約7000人)には開業医はなく、医療機関は各島にそれぞれ浦郷診療所、海士診療所、知夫診療所があり、唯一の入院設備を備えた中核的医療機関として隠岐島前病院があります。内科、外科、小児科が常勤で、産婦人科、耳鼻科、眼科、精

神科のパート診療を行っています。

定期的へり搬送と画像伝送 周りを海に囲まれ、島のどこにいても海が見える環境で、まさに典型的な離島医療の場です。夏場は海に潜って魚や貝をとったりする日もあれば、緊急搬送のためにへり要請をしても冬の時化でへりが飛ばなかったりもあります。診療機器はへりカルCT、上部下部内視鏡、腹部・心・表層エコー、透視、レントゲンなどを備えています。

緊急のへり搬送が年間15～20件程度あり、以前は当院より医師が同乗しました。その日には帰ってこられず、外来、検査などが混乱しました。現在は本土から医師がへりに同乗して来島するシステムができあがり、ストレスなく救急対応ができるようになりました。

1998年には本土の病院と画像伝送システムが構築され、へり搬送の必要性の判断なども含めて緊急時の専門医への相談に非常に役に立っております。また、CTの読影なども翌日には放射線科のレポートが返信され、離島にしながら専門的医療を受けることが可能となっています。

療養のいい流れ 入院施設としては一般病床19床、療養型病床群24床の計43床です。一般病床平均在院日数16.5日、病棟稼働率92%、療養型の平均在院日数が約60日です。CT導入以後、救急医療の対応できるレベルも格段にあがり、一般病床で急性期を治療したのち、在宅生活をみすえて療養型でしっかりリハビリをして退院していくという良い流れができています。

人口的にも全体を見渡すのにちょうどよい規模で、健康教室などの保健活動から急性期の医療、リハビリを含む療養型での治療、その後の在宅医療、という流れが非常にわかりやすく、また保健福祉分野とも連携を取りながら、やりがいをもって仕事に取り組んでいます。

日本海の離島にやってきて、離島地域医療に取り組み始めて、5年目に入りました。日常生活に自然を感じ、家族との時間も大切に

しながら、まだ、少しやるべきことが残されていると感じており、もうしばらくここにとどまって、がんばってみようかと思っています。【隠岐島前病院 白石】

へき地医療・民間の医師確保へ


年度内に計画策定

中山間地や離島の医療対策を総合的に進めるため、医療機関や自治体などで組織する「へき地等医療支援会議」は14日、松江市内で初会合を開いた。主な対策だった公的医療機関の医師確保に加え、新たに民間のへき地勤務医や医療従事者を確保するための事業指針「県へき地医療支援計画」を、本年度中に策定することを定めた◆同会は、県や島根医大附属病院、関係市町村などで構成し、医師配置の調整を担ってきた既存の「へき地勤務医師確保協議会」を拡充。看護協会や歯科医師会、へき地診療所の医師などを新たに加え、総合的な医療支援機能を検討する。新たに策定する医療支援計画は、2006年度までの5カ年計画。医療従事者確保策や代診医の派遣制度、病診連携の推進、救急医療体制の整備などを盛り込み、へき地医療対策の今後の方向性を取りまとめる◆へき地の医療体制は、医師不足や患者の通院手段の確保など課題が多く、県が以前から対策を実施してきた。しかし今後、医師の高齢化による無医地区の拡大など、事態がさらに深刻化する見通しで、県はU・Iターン医師の発掘や医師の研修体制の充実など、本年度事業でへき地医療対策を大幅に拡充している。

【山陰中央新報02.06.15より抜粋】

◇風に吹かれて～出雲より～

このコーナーでは、県立中央病院の行なっている地域医療支援について、その考え方あるいは状況などを報告します。へき地医療支援機構を立ち上げましたが、この

機構の目的、事業などはいずれ報告することにし、今回は、地域医療支援の基本的な考え方と医療支援の主な内容をお話します。地域医療支援の

最終目標は、「医療における地域格差の是正」です。へき地・離島の住民も、都市部に居る人と同じ医療を受ける権利があるわけですが、交通の不便さ、マンパワーの不足など種々の課題があるのが現状です。中央病院は「地域医療の支援推進」を基本コンセプトの一つに掲げ、一般的な医療はもとより、救急医療、高度・特殊医療などすべての医療に対する支援を行なっております。「地域医療科の医師の派遣」（今年度は23名の医師を派遣）、「代診医の派遣」（H13年度は118日）、「隠岐島遠隔医療の支援」（約300件/月）などが代表的な対策事業です。

今後とも積極的に「へき地・離島医療の支援」を行なっておりますのでよろしくお願ひいたします。
【県立中央病院 大田】

県のドクターバンクから

●求職・求人情報

（平成14年6月30日現在）

<求人> 13件

邑智郡一病院／泌尿器科、放射線科、整形外科、精神科

鹿足郡一病院／内科

仁多郡一病院／内科

浜田市一病院／内科

飯石郡一病院／内科

出雲市一診療所／胃腸科、肛門科

益田市一病院／内科

松江市一病院／内科

邑智郡一病院／内科、整形外科、在宅医療

益田市一病院／精神科

隠岐郡一その他／老人医療

鹿足郡一病院／内科、外科

<求職> 0件

●申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までご連絡ください。

[電話番号]

0852-21-8813（専用電話）

[ホームページアドレス]

<http://www.shimane.med.or.jp/dcbank.htm>

【担当：戸谷・吉岡】

◇～益田からの手紙～

前略 まだ見ぬドクターさまへ
わが益田圏域では、精神的に地域医療に取り組んで



いますが医師不足が深刻です。どうか私の声に耳を傾けてください。

益田圏域（益田市・美濃郡・鹿足郡）は島根県の5分の1の面積を占め、緑と清流に恵まれ、気候温暖、物価も安く、暮らしやすい素晴らしい特徴をもっています。

地域医療は、圏域内の5つの総合病院と診療所、そして精神科単科の松ヶ丘病院が地域保健医療計画などを踏まえ役割を分担しながら担っています。

5つの病院とは、益田赤十字病院（三次医療をはじめとする急性期を主に担う）、益田地域医療センター医師会病院（急性期と慢性期を担い医師会のオープン病院としても全国5本の指に入る）、日原共存病院（地域の保健や在宅医療との連携を進めながら鹿足郡の慢性期医療も担う）、津和野共存病院（鹿足郡の救急医療を担う）、そして六日市病院（急性期も担いつつ管内の慢性期医療の1拠点）です。

機能を分担しつつ、相互に連携しながら取り組んでいますが、特に次の診療科では医師不足が深刻です。関心をお持ちのドクターには、ぜひ益田健康福祉センター<tel 0856-31-9531>または医療人材センターまで、ご連絡いただきますようお願いいたします。草々

- ・消化器内科・麻酔科・小児科
- ・循環器科・リハビリテーション科
- ・外科・その他内科・精神科

【益田健康福祉センター牧野】



◇自治医大生に期待します

自治医科大学は、離島や過疎地域など、医療に恵まれない地域の住民の医療を確保するとともに、住民の健康の増進、福祉の充実を目指す医師の養成を目的として、全国の都道府県が共同して昭和47年に設立された医科大学です。

自治医科大学の学生は、毎年多くの志願者の中から各都道府県ごとに2名ないし3名ずつ、計100名の学生が選抜されます。

島根県からも毎年優秀な学生を送り出しており、現在、13名の学生が将来の地域医療の担い手を目

指し、高度な医療技術を身につけるべく、昼夜、勉強に励んでいます。また、平成13年度末現在で、本県出身の自治医科大学卒医は51名にのぼり、この半数以上が県内の医療機関で地域医療に従事しています。

先日、島根出身の在学生と意見交換する機会がありましたが、学生たちは皆明るく、礼儀正しく、皆が非常に仲の良い様子がかえりました。また、雑談の中で、ふるさと島根への熱い思いを節々に感じることもできました。

医師という職業は、人と人とのふれあいを大切にすることが重要であり、「病気を診る前に人を診よ」とも言われます。本県出身の学生たちにはその素質が十分に備わっていると思います。在学中に多くの人々と接し、益々その素質に磨きをかけていただくことを期待します。【医療対策課 京谷】

None Blue Rose



和田のはら 八十島かけてこぎ出でぬと 人にははつげよあまの釣船

百人一首に収録された平安歌人小野篁作の歌である。篁は隠岐の現海士町と都万村に流され、当地で甘い浮き名を流した粹人としても知られる。この歌には流罪となる不安、都落ちの悔しさを優雅な船出に掛けてうち消す強さがある

▼島根ではへき地で勤務される医師を捜している。田舎には温かい人のつながりがあり、万物への感謝があるのは確かだが、都市の便利な機能を楽しむことはできない▼さらに最新の医療知識や技術から離れてしまうという焦りは、篁の都落ちに通じるものがある。そうした悲哀感をドクターたちにいだけせまいとして考えられたのが、中央病院のへき地勤務医師確保枠。心ある医師を悲しませてはいけない、学ぶ場所を確保しよう、へき地医療も最先端に位置していなくてはならないと私たちは考えている【F】

真に青い薔薇は園芸家永遠の夢で、[不可能]という意味の BlueRose。私たちのへき地医療への熱いメッセージが None BlueRose です。

